

令和 2 年度岡山県農林水産総合センター畜産研究所試験研究課題評価結果票

＜中間評価＞

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	R2-中間-1						
課題名	「おいしさ」を指標とする岡山和牛の改良事業						
課題の概要	<p>牛肉は、脂肪交雑の格付が高いほど取引価格が高いことから、これまで県では脂肪交雑を重視した改良と飼養管理技術の研究を行ってきたが、消費者サイドでは、健康志向の高まりなどから、「赤身嗜好」が増加傾向にあり、「脂肪交雑偏重」に疑問を呈する声がある。消費者ニーズ等に敏感に対応しなければ、県産牛肉への消費者離れが懸念されることから、「おいしさ」を指標とする岡山和牛の改良は喫緊の課題である。</p> <p>そこで、「おいしさ」の指標となる項目について遺伝的能力（育種価）を算出して岡山和牛の改良を進めるとともに、飼養管理技術を改善し、おいしいおかやま和牛肉の生産を図る。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成可能性		1 人	5 人			3. 2
	〃（阻害要因）		1 人	5 人			3. 2
	必要性	1 人	5 人				4. 2
	有効性		3 人	3 人			3. 5
	効率性・妥当性		2 人	4 人			3. 3
	総合評価	2 人	4 人				4. 3
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・和牛の脂肪交雑偏重は疑問も多く、脂肪交雑は限界に来ている感がある。今回の試験研究は時代のニーズにマッチした試験研究であり今後大いに期待できるものと思われる。 ・他者へ先駆けて『おいしさ』の指標を作成し、消費者ニーズにマッチしたおいしさに拘った、岡山和牛の改良を望む。 ・「おいしさ」については、個人的な嗜好が左右するため、研究がむずかしい側面があるが、着実にデータを収集していただきたい。 ・肥育者によってオレイン酸割合が4%も差があるという知見は興味深く、生産者への技術提供となりうる。 ・官能評価を取り入れることも、研究の深化に有用かもしれません。 ・全農や販売店と連携しながら消費者の意見聴取を行い、今から流通も含めて検討しておく必要がある。 ・味を数値化することで努力すべき肥育のポイントが明確になり個々の農家の肥育の創意工夫にもつながるので、きめ細かな測定と適切な助言指導を目指していただきたい。 ・遺伝的に「おいしい」肉の素質を持った牛の作出や、脂肪の質をよくする飼養方法のさらなる研究によって生産者のモチベーションと消費者ニーズに応えていただきたい。 						

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番号	R2-事後-1						
課題名	搾乳ロボットでの飼養管理技術の検討						
課題の概要	<p>搾乳ロボットで生産性を向上させながら牛の健康維持ができるように、PMRの粗飼料原料の検討と、搾乳ロボット用濃厚飼料の開発を行う。</p> <p>PMR粗飼料原料の検討では、牧乾草、イネWCS、トウモロコシWCSをそれぞれ粗飼料主原料にした場合のルーメン恒常性を測定し、高泌乳牛飼養に適したPMRを提唱する。濃厚飼料の開発では、高脂肪分でTDNの高いもの及び分解速度の遅い濃厚飼料が搾乳行動、ルーメン恒常性におよぼす影響を明らかにする。</p>						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	1人		5人			3.3
	有効性(効果)	1人		5人			3.3
	有効性(目的以外の成果)	1人	1人	4人			3.5
	効率性・妥当性(費用対効果)		1人	5人			3.2
	効率性・妥当性(計画)		1人	5人			3.2
	成果の活用・発展性	1人	2人	2人	1人		3.5
	総合評価	1人	3人	2人			3.8
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、益々酪農家の規模拡大が進むと考えられるため、搾乳ロボットでの飼養管理技術の検討は必要な研究であると考えられる。 ・この研究の成果は、現在搾乳ロボットを導入している農家にとって、特に有益な技術であり、搾乳ロボットメーカーの指導・マニュアル等との整合性をとりつつ、開発技術の普及を図っていただきたい。 ・搾乳ロボットメーカーの指導・マニュアル等との整合性をとりつつ、開発技術の普及を図ってはどうか。 ・併せて、普及を目指すにあたっては、開発した飼料の生産コスト等の試算を関係機関と連携しながら実施し、明確にすると一層よいと思う。 ・本研究は独自性が高いと思われた。本研究が普及段階に入れば、稲WCS利用拡大や広がる耕作放棄地の歯止めにつながる可能性もあるので、耕種・畜産農家、飼料会社・消費者等の連携にもひろげていただきたい。 ・この結果をTMR製造技術の確立・濃厚飼料の製品化にも繋げるよう、今後に期待する。 ・搾乳ロボットが普及しているということを、県民にどのようにアピールするか考えてまとめていただきたい。 						